



## バーゼルワールド2011

パテック フィリップ ジュネーブ  
2011年3月

### パテック フィリップ 5270 モデル：70年以上にわたる伝統と革新を体現した、クロノグラフと永久カレンダー搭載の新しいグランド・コンプリケーション

2009年から2010年にかけて、パテック フィリップは多数のクロノグラフのニューモデルを発表して注目を集めた。今年には他のグランド・コンプリケーションが表舞台を飾るが、《クロノグラフの年》が終了したわけではない。多くの愛好家、コレクターの喜びとするところであろう。そのひとつが新しい5270モデルである。このニューモデルは、2009年パテック フィリップが発表した、完全自社開発・製造のクラシック・クロノグラフ・ムーブメントに新たに永久カレンダーを搭載している。

パテック フィリップは永久カレンダー搭載クロノグラフのシリーズ生産を70年前（1941年）に開始した。以後、このタイプのタイムピースは、パテック フィリップのグランド・コンプリケーション中、最も追い求められるモデルとなっている。さわめて高度な2つの機能を搭載し、その各々の組立て、調整は、最も熟練した専門家によって初めて可能である。それが、数多くの需要にもかかわらず限られた個数しか製作できない理由である。新しい5270モデルもこの例にもれず、すでに将来のコレクターズ・アイテムとしての地位を保証されているのである。

### パテック フィリップ 永久カレンダー搭載クロノグラフの伝説的な顔

5270モデルの文字盤は、このタイプの最も著名なタイムピースを思わせる構成となっている。12時位置に曜日と日付表示窓が横に並び（ダブルギッシェ）、6時位置に日付を指針表示とムーンフェイズ、9時位置にスモールセコンド、3時位置に30分計が配置されている。これは70年以来、パテック フィリップの永久カレンダー搭載クロノグラフのデザインの伝統をなしてきたものである。しかしこのニューモデルは、いくつかの点において過去のモデルと異なっている。日付指針表示サブダイヤルと他の2つのサブダイヤルの間に設けられた2個の小さな窓は、左が昼夜表示、右が閏年サイクルを表示している。またスモールセコンドと30分計は、中央よりわずかに下がった位置に並んでおり、これにより、パテック フィリップ完全自社開発・製造のコラムホイール、水平クラッチ式クロノグラフ搭載の手巻キャリバーが搭載されていることがわかる。

### 二十一世紀のクラシック・クロノグラフ

新しい永久カレンダー搭載ムーブメントの名称は、キャリバーCH 29-535 PS Qである（Qは永久カレンダーを意味する）。伝統と革新の融合を体現している。クロノグラフへの動力の伝達は、クロノグラフ駆動車、中間車、クロノグラフ秒針車による、クラシックな水平クラッチ式で行なわれる。しかしこれら3つの歯車には、伝統的な星型の歯型に代わり、パテック フィリップ特許の新しい歯型曲線が採用され、摩耗を減少させ、エネルギー効率を向上させ、歯の山と山がぶつかり合うことを防いでいる。クロノグラフ中間車とクロノグラフ車の噛み合い調整は、コラムホイール上部に設けられた大型の偏心シャポ（カバー）が、クラッチレバー先端に直接働くことにより行なわれる（従来の機構では、クラッチレバーに隣接する偏心軸がこれを行っていた）。この新しいシステムにより、クロノグラフ中間



車とクロノグラフ車の噛み合い調整をより精密に行なうことができる。その他の技術革新としては、軸受けに両側にルビー（穴石）を使用した、復針レバーの2つのハンマー（クロノグラフ秒、分）の自動位置決めシステム、クラッチレバーとブロッキングレバーの同期システム、弧状の切り欠き部を設けた分積算計カムがある。合計6つの特許取得の技術革新により、このムーブメントは、クラシックなクロノグラフ・ムーブメントとしては最も現代的な特徴を備えているといえる。この意味で、パテック フィリップの歴史において格別の重要性を持つ永久カレンダー機構を搭載するのに最適なムーブメントといえることができる。

## 手首に着用する時を超越したタイムピース

1925年、パテック フィリップは97 975のモデル番号の下に、日付、曜日、月を閏年を自動的に判別して表示する永久カレンダー搭載の初の腕時計を発表した。今からちょうど70年前の1941年には、永久カレンダーのシリーズ生産が開始された。1518モデルである。1518モデルは、5270モデル同様、曜日、日付表示窓と角型プッシュボタンを備えていた。1940～50年代のパテック フィリップの著名な永久カレンダー搭載クロノグラフは今日、国際オークションで世界価格記録を更新し続けている。

手巻基本キャリバーCH 29-535 PSに永久カレンダーを搭載するため、まったく新たにカレンダー・モジュールが開発された。厚さわずか1.65 mm、構成部品数182個、クラシックなカム機構を用いたこのモジュールをクロノグラフ機構に完璧に統合するため、2年間の開発期間が必要であった。5270モデルの永久カレンダーは、マニファクチュールパテック フィリップの最高の技術力を体現している。レバー、日付星車、曜日星車、月星車、閏年カムを統合した年カム、バネなどの多数の複雑な部品から構成されている。ムーブメントとカレンダー・モジュールの多くのスチール部品は、技術的完璧さばかりでなく、手作業による側面のヘアライン仕上げ、表面の滑らかな仕上げ、面取りとポリッシュ仕上げなど、その精緻な仕上がりによってもマスターピースの名に値する。面取りは、通常の45度に仕上げられた平面ではなく、パテック フィリップ独自のわずかにふくらみを帯びた面となっている。歯車やスチールのカナ歯車は、やはり細心の配慮を込めて入念に手仕上げされ、歯の内面が、ハードウッドのディスクを用いてひとつひとつ手作業で研磨されている。これらの忍耐強い作業は、美観のみを目的とするものではない。完璧に仕上げられた表面は摩擦を軽減し、摩擦を防ぎ、エネルギーの伝達効率を最高に高める。5270モデルのオーナーは、信頼性を向上させるこれらの仕上げすべてを見ることはできない。大部分は文字盤の下に隠されているからである。しかし所有するタイムピースが、世代を超えて継承されて行くに従い、価値を増すことはあっても減じることはない、という事実を見るだけでも、これを納得させるに十分であろう。

## 伝統に基づくデザイン

初の永久カレンダー搭載クロノグラフ・モデルの誕生70周年を記念して、パテック フィリップが栄光ある歴史的モデルからインスピレーションを得たニューモデルを創作したことは、何ら不思議ではない。伝統に基づくデザインの特徴は、12時位置に横に並んだ曜日と日付表示窓、6時位置に日付を指針表示とムーンフェイズに表れている。ムーンフェイズ機構は122年でわずか1日の誤差というきわめて精度の高いものである。さらに9時位置のスマールセコンド、3時位置の30分計は、中央よりわずかに下がった位置に並んでおり、これはパテック フィリップ完全自社開発・製造の新しい手巻ムーブメントの特徴である。酸化ブラック仕上げのリーフ型時・分針は、1941年の1518モデルからインスピレーションを得ており、センターのクロノグラフ秒針は、カウンターウェイト付アロー型である。ゴールド酸化ブラック仕上げの植字アワー・インデックスはバトン型であり、文字盤外周には分スケールとクロノグラフ・スケールが



設けられている。現代の永久カレンダーに不可欠なものとして、2個の小さな窓がある。7～8時位置の窓が昼夜表示、4～5時位置の窓が閏年サイクルを表示している。直径32.4 mmのシルバー・オパール文字盤は、11種類に及ぶ表示機能をハーモニー豊かに表示し、その視認性は完璧である。偉大な伝統的時計製作技術に基づくパテック フィリップの技術・ノウハウを体現した輝かしいタイムピースといえよう。

### クラシックなホワイトゴールドのケース

キャリバーCH 29-535 PSと5270モデルという2つのマスターピースがクラシックな3体構造の18金ホワイトゴールド・ケースに収められている。41 mmのケース径がこのタイムピースに豊かでコンテンポラリーなエレガンスを与えている。ケースの製造はパテック フィリップの工房において、ホワイトゴールドの素材に数トンの圧力をかけることにより、伝統的な冷間鍛造の製法でつくられる。続いて多岐にわたる機械加工が行なわれ、ばり取り、ポリッシュ仕上げが施される。18金ホワイトゴールドの角型プッシュボタンは、1940～50年代の永久カレンダー搭載クロノグラフと同じ丸みを帯びたフォルムを持っている。切り欠きを設けたラグも歴史的タイムピースからインスピレーションを得ている。サファイヤクリスタル・バックは、よりコンテンポラリーなエスプリを体現している。サファイヤクリスタル・バックを通して、時計製作技術の真髄を示すクロノグラフ・ムーブメントの構成部品と大型のジャイロマックス・テンプレを鑑賞することができる。このタイムピースは、ラージ・スクエアのマット・ブラック・ハンドステッチ・アリゲーター・バンドと18Kホワイトゴールドの折り畳み式バックルを装着している。

新しいグランド・コンプリケーション5270モデルは、172年以來、マニュファクチュール パテック フィリップが培ってきた技術・ノウハウとデザイン感覚を完璧に体現している。そこには同時に、今から70年前、1518モデルに始まるパテック フィリップの永久カレンダー搭載クロノグラフの栄えある伝統が集約されているのである。





## 技術仕様

### 18金ホワイトゴールド仕様5270モデル：永久カレンダー搭載クロノグラフ

ムーブメント	キャリバーCH 29-535 PS Q 手巻ムーブメント、コラムホイール式クロノグラフ、クロノグラフ秒針、瞬時運針式30分計。永久カレンダー、曜日・月・閏年サイクル・昼夜を窓表示、日付を指針表示。ムーンフェイズ。
寸法：	32 mm
総厚：	7 mm (永久カレンダー機構：1.65 mm)
部品総数：	456個 (永久カレンダー機構：182個)
石数：	33石
連続駆動可能時間：	65時間
テンプ：	ジャイロマックス・テンプ
振動数：	28,800 振動 (片道) / 時 (3 Hz)
髭ぜんまい：	ブレゲ髭ぜんまい
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・押し込んだ位置：ゼンマイの巻き上げ ・引き出した位置：時刻合わせ、ストップセコンド (秒針停止装置) クロノグラフ・プッシュボタン)： ・スタート、ストップ (2時) ・ゼロ復帰 (4時)
表示：	時針・分針 (センター) クロノグラフ秒針 (センター) サブダイヤル： ・日付表示 (6時) ・30分積算計 (3～4時) ・スモールセコンド (8～9時) 表示窓： ・曜日、月表示 (12時) ・ムーンフェイズ (6時) ・昼夜表示 (7～8時) ・閏年サイクル (4～5時)
調整ボタン：	・曜日調整ボタン (1～2時) ・月調整ボタン (12～1時) ・ムーンフェイズ調整ボタン (6～7時) ・日付調整ボタン (11～12時)

18金ホワイトゴールドの象嵌を施した黒檀のファンクション・ペンシルが付属



〈報道資料〉 ページ 6

- 刻印： パテック フィリップ・シール
- 外 装
- ケース： 18金ホワイトゴールド、ねじ込み式サファイヤクリスタル・バック、3気圧防水
- 寸 法： ケース径： 41 mm  
厚 さ： 12.40 mm  
ラグ幅： 21 mm
- 文字盤： シルバー・オパール文字盤  
11個のゴールド酸化ブラック仕上げのバトン型植字アワー・インデックス  
酸化ブラック仕上げのリーフ型時・分針  
カウンターウェイト付アロー型センター・クロノグラフ秒針
- 中央よりわずかに下がった位置に設けられたサブダイヤル（微細な同心円模様）  
・スモールセコンド（8～9時位置、酸化ブラック仕上げリーフ型針）  
・30分計（3～4時位置、酸化ブラック仕上げリーフ型針）
- 革バンド： ラージ・スクエアのハンドステッチ・アリゲーター・バンド、カラーは  
マット・ブラック、18金ホワイトゴールド折り畳み式バックル付

